

成材などの樹種別見本をお土産に配ったりと、随分な配慮がしてあった。また、研究成果は特許を取ったり、実際の製品にするための努力が感じられた。単なる研究にとどまらず、実用化、産業化を強く志向していたのが印象的であった。

午後のお茶の時間を過ぎて、今回の共同ワークショップについての会議が行われた。林産化学を主テーマとしたものにしようという大筋の合意ができた。次回開催場所は日本であり、今度はオーストラリアの研究者を招待しなければならない。関係者に今後じっくりと苦労して貰うことで、さらに実のある情報や意見の交換会が期待できる。

〔参考文献〕 小林和子・美濃輪智朗・澤山茂樹 (1995) : バイオマスプラランテーションを利用した廃水処理システム, 資源と環境 4 (3) : 225~233.

図書紹介

焼畑と熱帯林 井上 真 著 A5版 176 pp. KK 弘文堂, 東京, 1995 刊, 定価 3,090 円 (税込み)

1980 年代, 年間 1,540 万 ha もの熱帯林が消失されてきたと言われており, その原因の一つは焼畑だとされているが, これはごく最近のことで, それまで焼畑は, 自然のリズムに沿った文化・社会的特性のバランスの上に成り立ってきた農法だとする。本書は, 「カリマンタンの伝統的焼畑システムの変容」という副題が示しているように, インドネシア・カリマンタンに住んできたケニア・ダヤック人の例を取り上げ, 徹底したフィールドワークによって実態の調査を行った。その結果にもとづき, 序章, 歴史と集落の概況・焼畑システム変容の実態・焼畑農業の変容メカニズム・焼畑農業は持続的かの 4 章, およびアポ・キャン地域における文化生態系の動態と題する終章をとおして, 彼らの生きざまの変容を示している。そして, 序章一節の結びに著者が述べているように, 本書は森林地域を対象とした人文・社会科学的色彩の強い, 認識論としての地域研究を基本としたもので, 近い将来, この上に政策論を展開することが意図されている。このような地域住民に対するアプローチこそ, この研究を情熱的に進めている著者の本旨であり, また新しい視座にある林業の役割でもあるはずである。その意味で本研究の一層の進展に心から期待したい。

(浅川澄彦)